

「未来は、過去を変える」 小河俊紀

● はじめに

時間を主題にした映画にステイブン・

スピルバーグ監督の傑作「バック・トゥ・ザ・フューチャー」

があります。

それを思い出しながら、最近

映画化された平野啓一郎の小説

「マチネの終わりに」を題材に

近況を少し語ってみたいと思っ

ます。

● 激動だった昨年

人は、歳と共に過去の思い出に生きるよ

うになります。残された未来が少ないから、

仕方ありません。時間の経過で嫌なことをだ

いたい忘れてるので、どうも自慢話が多く

なります。(私もそうです。)同じ世代同士な

らまだしも、親子ほど歳が違うと、よほど面

白い話題でないと若者には迷惑です。もちろ



クラシックギタリスト
平野啓一郎

ん、未来の話題なら必ず盛り上がります。
一昨年に古希を超え、私はいつの間にか
立派な（？）高齢者になりました。しかし、
枯山水のような悠々自適生活には程遠く、特
に昨年はいろいろ激動の一年となりました。
四十七年前、進路に迷う私を茫洋とした
草創期のクレジットカード業界へ誘い、“そ
の限りない可能性を信じろ”と、常に励まし
続けてくれた長兄を昨夏病気で失いました。
キャッシュレスが私のライフワークになった
のも、兄のおかげです。深く尊敬する人生の
恩人でしたので、憔悴は長く尾を引きました
親もそうですが、遠くに住んでいても、人生
の支えである兄弟の存在の重さを痛感した年
でした。

● 出版の決意

しかし、一方では、この恩義に報いる仕
事に挑戦した年でもありました。
キャッシュレスに慣れた外国人が多数来
日する「東京オリンピック2020」に向け

て、キャッシュレスの過去・現在をベースに「金融や政治経済、社会制度全体が今世紀中にどのように変化するのか」を、消費者啓蒙書として時空横断的に書き下ろしました。

実は、2015年から4年間、放送大学でカード全般に関する正規の面接講義を続けてきたのですが、日本の一般市民（受講生）のキャッシュレスへの認識の薄さに落胆したのが伏線でした。

2018年度講義の終わった昨年4月下旬、授業を連携した仲間（4名の専門家）に共同執筆を呼びかけたところ、立場上不可能な一人を除き、快諾を得ました。

とりあえず、お目当ての出版社へ商業出版構想を持ち込んだところ、好運にも短期間で了解をもらえたのです。こうして、6月の上旬には出版の見通しがつきました。

帰省して入院中の長兄を見舞い、上梓を



報告すると、病状が予断を許さない中、「よ
かったな！頑張れよ」と短い言葉で喜んでく
れました。それが、兄の最後の激励でした。

● 過酷な執筆作業

過去にいろいろな論文を書いてきたので、
多少の自信はありましたが、今振り返ると無
謀に近い挑戦でした。

一口に出版と言っても、それぞれ生きて
きた世界が違う5人の専門家が「キャッシュ
レスと人の幸福」を統一テーマに、課題分担

で複眼的に語る共同執筆形式としました。そ
れぞれ、推論の根拠を示しながら、二十一世紀
全体を見通すよう努めました。

当事者はもちろん、国内外共に先行文献
がありませぬ。私が言い出しついで全体の編集企画り
に割いた意見調整の精神的エネルギーは、正直半端な



ものではありませんでした。経過詳細は省略しますが、スタートに際し、やむなき事情で執筆を辞退された方の穴を埋める適切な専門家の発掘・折衝に時間がかかったうえ、諸外国のキャッシュレス事情を受け持つ予定だったY先生の急逝という思わぬ事態で、いきなり頓挫しそのような局面もありました。

その後、幾多の紆余曲折を経ながら、今年2019年2月に、何とか予定通り発刊にこぎつけました。

今から考えると、もう二度とできないほど過酷な作業でした。だからこそ、人生の記念碑になったかもしれませぬ。

税抜2千円もする地味な専門書なので、当初から沢山売れるとは思っていませんでした。が、キャッシュレス本出版ブームの中で、一時アマゾンとヤフーのキャッシュレス分野ランキングのトップになりました。発刊から十ヶ月近く経った今でも、売れ行きが途絶えて

いないようなので、いささか満足です。

（ただし、印税はわずかです 😞）

● 未来と過去の関係

1985年にヒットした映画「バック・トゥ・ザ・フューチャー」パートIIIで、タイムマシン発明者ブラウン博士の「未来は自分で作るものだ」という名セリフを覚えている方が多い



と思います。

“運命は神が決めるもの。人間が変えることはできない”という伝統的な欧米思想を打ち破るものでした。

ちなみに、この映画で、わずか数秒間タクシー料金の指紋認証決済場面が登場します。

コードレスの生体認証は34年後の今でも先進的なキャラクターシユレス決済です。インタール

ネットが登場していない1985年時点で、



このような未来を描くスピルバーグ監督の発
想力に、今さらながら驚きます。

この映画では、「過去は変えられないも
の。もしその歴史を変えると時空に歪み（タ
イム・パラドックス）が生じるから、絶対に
変えてはいけない」という戒めを再三ブラウ
ン博士が発言するのも印象的でした。

しかし、邦画の最近作「マチネの終わり
に」を鑑賞して、過去について
それを超える新鮮で強烈な哲学
に遭遇し、私は少なからぬ衝撃
を受けています。



この映画は、クラシックギ
ターの音色とパリの街角風景が
非常に美しく、心に沁みる場面が続きます。

原作者平野啓一郎は、主人公のギタース
ト蒔野聡史（福山雅治）に度々語らせます。
「人は、変えられるのは未来だけだと思っ
ている。だけど、実際は、未来は常に過去
を変えているんです。変えられるともいえる

し、変わってしまったともいえる。過去は、それくらい繊細で、感じやすいものじゃないですか？」

確かに、現実の生活過程で過去の姿が変化するという経験は少なからずあります。嫌な思い出でも、時間とともに懐かしい思い出に



変化します。

私流に解釈すると、ちょうど、登山の途中で見える風景と、登頂して見下ろす風景がまるで違うように、視点が変わるからではない

でしょうか。どちらが正しいかという問題ではなく、過去を俯瞰すると登山途中で気づかない風景に気付く。自分の次元が高まっている（成長している）証拠なのだろうと思います。脳科学でも、人は時間経過の中で脳内の不要情報の消去と更新・アップグレードを絶えず無意識に行っているといえます。

未来に進むほど、それまでの現在は過去

となり、新しい情報で上書きされていくので
す。一種の熟成かもしれない。

● 歴史の謎

来年2020年の大河ドラマは、戦国の
武将明智光秀が主役に決まりました。

しかし、彼ほど史実の解釈が謎の人物は
少ないですから、制作する苦労
も大変でしょうね。

本能寺の変に止まらず、も
っと近い幕末に関しても坂本龍
馬の暗殺背景、さらに近くは太
平洋戦争の開戦真実等も謎だら
けです。



国家規模でみると、「日本史とは、常に
歴史を整理する側の論理によって不都合な真
実を一方的に削除・更新し、社会認識を改変
してきた間欠の系譜」と考えることもできま
す。

もし、改変が不可能な仮想通貨技術「ブ
ロックチェーン」の応用で、微細な人の心含

めた正確な史実が、連続的・体系的に記録され、いつでも再生（疑似タイムスリップ）できる時代がやってくるなら、次世代の日本は大きく進化する予感がします。

●あとかき

最近、どうも複数の作業を並行して行うことが苦手になりました。ウツカリ忘れが多くなりました。

乱読に近いほど多様な本を読むことが増えたので、脳内に消化不良情報がパンク状態なのか、単なるポケ症状なのか、はたまた両方なのか、悩ましい今日この頃です。

令和元年十一月三十日（校了）